

1 成果

(1) 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）の結果から

再度悉皆調査となった平成25年からの3年間に渡る推移から、中学校においては長期的で地道な取り組みの成果が上がっている。各教科A・B問題共に、全国公立学校の平均正答率と同程度（±5ポイント以内）にすべて収まっている。

これは、これまでに述べてきたとおり、小中学校9年間にわたる言語活動の充実、特に校内研究におけるコミュニケーション能力の育成に重点をおいた各校の研究の充実にあると考えられる。全町的に同じ方向性をもった取り組みを継続することにより、思考力・判断力・表現力等の学力全般において結実したものであると言える。中学校の課題であった、国語B、数学Bにおける「自分の考えをもつ」「活用して話す」「説明する」「証明する」といった記述式の問題についての成果が顕著である。「的確に捉え説明する」「事象を自分の力で読みひらき、自分の考えを持ちながら、それを的確に表現する」といった、いわゆるPISA型学力が育っていると言える。

これらの向上の第一は、教師の授業改善へ向けての日々の研鑽、興味関心を沸き立たせる授業展開、集団としての学びの充実、個に対応した指導等の成果が実質的な数値として表れていると考えられる。また、学年・教科を超えた連携、少人数指導による取り組み、補充・補習学習の取り組み、「地域のせんせい」等の人材有効活用などが効果を上げている。

また、小中学校から一名ずつの教員が集まり、今日的な課題に取り組んでいる寒川町教育研究員研究会の研究成果が大きく影響している。平成24年度は、「児童・生徒に確かな学力を育む学習指導と観点別評価」「不登校児童・生徒ゼロへの挑戦」「『地域のせんせいふれあい推進事業』の効果的な展開」「基礎力定着度確認問題の作成～理科～」について研究している。25年度には「本に親しむ子どもの育成を目指して～新『さむかわ子ども読書100選』～」 「いじめを生まない学級・学校づくり」「関心・意欲・態度を育む学習指導と学習評価」「コンピュータの活用における習得規準の作成」について研究している。26年度には「基礎力定着度確認問題（算数・数学）の改訂」「児童・生徒指導の現代的課題への対応～ネット社会の功罪～」 「書く力の育成を目指した指導の工夫」「社会資料集『さむかわ』の改訂」について研究している。寒川町の教師が寒川町の児童生徒への教育について研究すること自体に意味や意義があるが、研究発表を自校に持ち帰り、指導に活かしていくことが大きな成果につながっている。

また、町教育研究員研究部会作成の「基礎的・基本的な知識・技能の習得に係る学年別評価問題（基礎力定着度確認問題）」（国語、算数・数学、理科）を小中全8校が取り組み、学年末における成果と課題の分析を行い、次年度へつなげていることが基礎力の確実な定着につながっている。「神奈川県公立小学校及び中学校学習状況調査」についても、学校ごとに結果の分析・対策の検討などを行っている。このように、複数方向から児童生徒の実態把握を行い、指導における重点項目や授業の改善点の明確化につながっている。

さらに、平成23・24年度「寒川 学びっ子育成推進事業」による全小中学校の研究推進と学校間の校内研究の交流（他校の教員が参加できる校内研究体制）以来、平成25年度町教職員研修会第3回「子どもの学力を伸ばす授業の技（上智大学教授：奈須正裕氏）」、第4回「授業づくりの基本Ⅱ（元日本大学：岩田満氏）」、平成26年度教職

員研修会第1回「いじめを生まない学級づくりと組織的な対応」（神田外国語大学教授：嶋崎政男氏）、第2回「学習意欲につながる指導と評価の工夫」（横浜国立大学教授：石田淳一氏）など、寒川町としての教職員の授業力向上へ向けての取り組みも成果につながっていると考えられる。

平成25年度、26年度と全国平均との差については、小中学校においてほぼ同じような推移を見せていたものが、27年度は全く違う結果となってしまった。中学校の成果と小学校の課題について、一過性の学年における特別な傾向なのか、起因する要因があるのか、どのような取り組みが必要であるか等、小中学校一体となって考えていかなければならない。

（2）児童・生徒質問紙調査の結果から

平成25年度からの3年間で、寒川町の児童生徒の内面について最も大きなことは、自尊意識が高いことと、将来の夢や目標をもっているところにある。「最後までやり遂げる」「失敗を恐れずに挑戦する」「自分にはよいところがある」と感じている児童生徒が多い。また、規範意識についても良好であり、特に中学校では高い傾向にある。「学校のきまりを守る」「人の気持ちが分かる人間になりたい」「いじめはどんな理由があってもいけない」「人の役に立つ人間になりたい」と答えている児童生徒が多い。これらは、地域・家庭・学校における言葉かけや指導がなければ、意識の向上はありえず、支える環境は良好であると言える。

さらに27年度は、特に中学校において「友達同士で話し合っただけで学級のきまりなどを決めている」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかった」「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」と答えている生徒が全国平均を大きく上回っている。また、小中学校共に、「授業の中で分からないことがあったら先生に尋ねる」という児童生徒がとても多い。

これらの調査結果から、特に中学校において、社会的な空間である学校が自分が認められている、安心して居られる場であること、さらには、友達と話し合い協力し、教師と共に創造的な生活を創ることができる場であることがわかる。

また、指導状況について、27年度「授業の目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか」については、中学校で37ポイント増加し全国を上回る状況になった。この数値は、実際に授業で実施していなければ伸びない数字であり、3中学校すべてが授業改善に取り組んでいる成果と言える。また、「書く」ことについては「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文・説明文を書くことが難しい」と答えている児童生徒は全国平均より低い。「書く」ことへ取り組みが徐々に意識変革へとつながっている。

朝食の喫食率や起床・就寝時刻、家庭とのコミュニケーションについては良好であり、「学校に行くのは楽しい」「出された宿題はやる」と答えている児童生徒は、依然として全高平均とほぼ同様の傾向である。

教科の正答率を上げていくことはもちろん大切なことであるが、寒川町の児童・生徒の内面における、様々な意識の高揚は人間形成・人格形成において最も注視すべきことであるとする。また意識と学力の相関も深い。今後とも、未来を担う寒川町の子どもたちに「生きる」の活力となるこれらの意識を高めていきたい。

2 学力向上に向けた取り組み

	主な現状	学校が取り組んでいく課題、教師や子どもや家庭における実践	教育委員会及び町の取り組み内容・支援内容
主として「知識」に関して	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校の漢字の書きに課題がある。 ●「割合や単位量当たりの大きさ」「四捨五入・およその数」「図形の性質と面積」「二つの数量を□、△などの記号を用いて式に表す」などの特定の領域・単元に課題がある。 ●小学校の四則計算の一部に課題がある。 <p>○小学校理科と中学校においては全国とほぼ同様の状況である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中学校数学に一部定着していない基本的な設問がある。 ●理科の一部に定着していない基本的な設問がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学力向上に向けた校長・教頭のリーダーシップに基づく組織的な体制づくりと、現状の正確な把握・分析、課題の明確化と対応策（方針）の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員会や学力向上委員会など、学力向上の中核組織編成と全教職員との連携体制を構築する。 ・自校の成果と弱点を正確に把握し、それぞれの要因についての考察を行う。 ・担当教科や学級担任のみの分析とせず、学校全体としての組織的な分析を実施する。 ・分析から課題を明確化し、方針を策定し、全教職員で共有化する。 ・課題から対応策を立て、全職員で対応策（方針）を共有化し、実現を図る。 ・特色ある学校づくりを行うことと、学力の伸長との連携を図り、学校における学力向上の位置付けを明確に行う。 ○学力向上と連動した授業力向上と学習指導の改善～基礎的・基本的事項の定着へ向けての取り組み（知識・技能）～ <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領における各教科、各学年における基礎基本の明確化を図り、基礎・基本に焦点化された目標設定を明示し授業実践に取り組む。 ・授業のはじめに授業の目標（めあて・ねらい）を児童生徒に分かるように示すことを徹底すること及び授業の最後には学習内容を振り返る活動を行うことを、授業の基本として共通理解する。 ・前学期、前学年の内容も意識したスパイラルな学習機会を意識的に設け、当該学年までの基礎力定着に努める。 ・朝学習の時間帯や授業内、さらには家庭と連携して宿題や家庭学習課題として、ドリル的な反復練習をおこなう時間を、意図的・計画的に設定する。また、小テストや単元テストを適切に行い達成状況を正確に把握する。 ・小学校においても、制限時間の伴う客観テスト、及び問題と解答用紙の異なるテストを実施し、問題形式や実施形式に慣れさせる。 ・必要な児童生徒に対して、補習や補充、少人数指導や個別指導を実施し、きめ細やかな指導による課題の克服やつまづきの解消に努める。 ・「基礎的・基本的な知識・技能の習得に係る学年別評価問題（基礎力定着度確認問題）」（国語、算数・数学、理科）の年度内実施と結果分析、考察、対応策検討、補充補習を行う。 ・eライブラリの活用により、わかりやすい教材提示やプリント作成の工夫する。 ○～思考力・判断力・表現力等の育成、活用の力の伸長をはかる授業づくり～ <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ楽しさ・意義・有用性を実感できる授業を創る。 ・しっかり教え、しっかりと考えさせ、児童生徒と教師が共に授業を創りあげる意識をもつ。 ・目標の明示から、「読解力」を意識した、読み取り→考える場を設定する。 ・さらに、「書く」ことを意識した、読み取り→考えたことを、目的や意図に応じて必要な内容を書く場を設定する。 ・そして、「表現する・交流する」ことを意識した、読み取り→考える→書いたことをもとに、話したり討論したり、感じたことや考えたことを交流する場を設定する。 ・流れのある学習を展開し、学習の終わりには、まとめたり振り返ったりする場をもつ。 ・校内のテストや評価においても、出題方法、解答方法に工夫を加え、B問題のような設問にも慣れさせる。 ○校内研究の充実による、教職員個々と学校全体がもつ指導力量の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・各校の現状と課題に基づく校内研究の推進と日常的な授業実践研究。 ・校内教職員による高め合いに加えて、外部講師や指導主事や他校の教職員による指導助言、意味付けや価値付けを受けて、より一層向上できる「成長する教師」集団の形成。 ・小中学校の連携強化（教員間の学習指導における協議や情報交換や協業の場の増設）。 	<ul style="list-style-type: none"> ○寒川町教育振興基本計画（修正版）における取り組みの充実と事業展開 <ul style="list-style-type: none"> ・知（確かな学力）、徳（豊かな心）、体（健やかな体）の調和のとれた生きる力の育生を具現化し、トータルな教育振興を進める。 ・特に知育については基礎学力の向上と学習意欲の向上を最大の主題に据え、全小中学校と教育委員会が一体となって総力を挙げて取り組む。 ・書く力を中心に据えた思考力・判断力・表現力等の伸長に取り組む。 ・読書活動の推進ならびに読書環境の整備に取り組む。 ・少人数学級の推進によるきめ細かい指導体制の充実に取り組む。 ・少人数制授業の導入による個に対応した定着へ向けた指導体制の充実に取り組む。 ○校長・教頭のリーダーシップに関わる研修の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・校長会、教頭会、校長教頭研究会、教頭研究会における講演会、研修会の充実。 ・学校運営実践研究会・教育委員会調査研究会における各中学校長・教頭の実践発表と相互研修。 ○さむかわ学びっ子育成推進事業の全町的な展開 <ul style="list-style-type: none"> ・かながわ学びっ子づくり推進地域研究委託事業を受け、2年間を見通した、全町的な校内研究の充実による授業力向上と児童・生徒の学力向上を図る。1年経過後に中間発表、2年経過後に成果の発表をおこなう。 ・各校1名による研究推進委員会を組織し、各校の研究推進促進、共通の課題の抽出、方向性の明確化、具体的な取り組みについて協議する。また、書く力を中心に据えた全町的な課題と各校の校内研究とのリンクを図る。 ・各校の授業研究会（研究授業・研究協議会）を町内全小中学校に公開し、共に研究協議を推進する。 ・各小中学校の学力向上の課題に即したテーマの講演会を実施し、全教職員に幅広く参加を呼び掛ける体制をつくる。 ・大学教授等を学力向上のスーパーバイザーとして招聘し、各校のニーズにあった指導助言による研究推進を図る。講演会・研究会を町内全小中学校に公開する。 ・授業研究会には、町指導主事が総力をあげて指導助言体制を組むと共に、県教育委員会指導主事も招聘し指導助言体制の一層の充実を図る。 ・小中交流研究会を教科別もしくは学年別分科会を中心に構成し、「学力向上」をテーマに研究協議を深める。 ○寒川町教職員研修会の一層の充実と研修参加体制の拡大 <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上とそれに関わる授業改善についての研修を拡大する。 ・講師の厳選を図り、教職員の指導力向上に直ちにつながる研修会とする。 ○教育研究員研究会を学力向上に直結させて充実させる <ul style="list-style-type: none"> ・小中1名ずつによる教育課題研究部会「基礎力定着度確認問題の改訂（国語科）から書く力の定着を目指して」ならびに授業づくり研究部会「7年間を見通した小学校外国語活動と中学校英語に係る連携と指導」の本年度の研究を充実させ、平成28年度はさらに学力向上に直結した研究を行う。 ・基礎力定着度確認問題の積極的利用 ○少人数学級、少人数学習のシステムをさらに充実させる ○学力向上へ向けて教育委員会としての具体的な方策について検討する <ul style="list-style-type: none"> ・若手教員の授業力向上に向けて、初任者研修会および2年次教諭研修会の充実を図り、積極的に授業研究や研究協議会を開催し、指導主事が総力をあげて指導助言体制を組む。 ・「基礎的・基本的な知識・技能の習得に係る学年別評価問題（基礎力定着度確認問題）」（国語、算数・数学、理科）及び「神奈川県公立小学校及び中学校学習状況調査」の町としての結果の分析による成果と課題の抽出を行う。 ・学力補助教材やeライブラリの導入により、学力向上と評価評定の連結、学力向上と自学自習の習慣化に取り組む。 ・教員の多忙化解消へ向けて、ハード面・ソフト面の両面からの可能性について検討を行う。 ・小学校中高学年の漢字の定着について「さむかわ学びっ子漢字コンクール（仮称）」実施に向けて検討を行う。
主として「活用」に関して	<ul style="list-style-type: none"> ●小学校において、読み取り解釈したことについて考え、根拠や理由を挙げて書く記述式設問に課題がある。 ●小学校において、数学的な考えを問われる問題や記述式の問題への課題がある。 ●小学校において、実験結果やグラフをもとに説明を書く記述式の問題への課題がある。 <p>○中学校においては全国とほぼ同様の状況である。</p> <p>○中学校において記述式の設問は概ね良好である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の定着化へ向けての取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の安定をはかる指導を充実させる。 ・家庭学習の方法を具体的に教える。保護者との連携を強め、家庭学習の習慣化を図る。 ・授業での学習と家庭学習を結びつけるために、宿題を意図的・計画的に、適切な量、質を考慮して与える。 ・宿題作成を、教科担当や担任に任せずに、学年・学校で取り組む。 ・eライブラリの積極的な活用を促す。 ○自尊意識や規範意識を高め、将来の夢をもつ取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・「自分にはよいところがある」といった自尊意識や、将来の夢を膨らませることができる学校生活を創り、自己肯定感、自己有用感を育む指導を行う。 ・児童・生徒指導を充実させ、きまりを守り、いじめをなくそうとする規範意識のある教室・学校をつくと共に、人の役に立ちたいという意識を育み、相互を認め合い、高め合うことができる道徳心をもつ児童生徒を育てる。 ・行事や体験活動を重視して感性を豊かにすると共に、自分の存在が認められ、自分の思いや願いや考えを合いながら友達と協力する場を重視する。 ○読書活動充実に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の時間の設定とともに、学校図書を整備と充実を図り、読書の習慣化に取り組む。 ・教職員や保護者による読み聞かせの実施や図書の紹介をおこない、児童生徒への本への興味関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校支援員」を各小中学校に配置する <ul style="list-style-type: none"> ・多様な学習支援を行うことができる体制を構築し、教職員が子どもと接する時間を確保する。 ○「地域のせんせい」の一層の拡大を図り、地域と連携した教育力の向上を図る ○家庭学習の習慣形成についての支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習啓発資料を作成し、家庭における学習習慣の形成への支援を行う。 ・PTA連絡協議会と連携し、家庭における学習習慣の形成について、各小中学校保護者・教職員・町民を対象とした教育講演会を開催する。 ○教育研究員研究会を学習環境・生活環境への取り組みに直結させて充実させる <ul style="list-style-type: none"> ・小中1名ずつによる児童・生徒指導研究部会「通常学級に在籍する支援を必要とする児童・生徒へのアプローチの在り方」の本年度の研究を充実させ、平成28年度は学習環境・生活環境への取り組みに直結した研究を行う。 ○携帯電話やスマートフォンの使用について、家庭へ向けて情報発信を行う <ul style="list-style-type: none"> ・教職員向けの資料提供や、家庭へ向けてのポスター配布等による、情報モラル教育も含めた情報発信を行う。 ○読書活動充実に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・読書指導員を対象とした研修会の実施による、図書空間の充実を図る。 ・「地域のせんせい」の活用による、ブックトークの実施。 ・総合図書館の本の活用の可能性を紹介したり、「わくわく読書マラソン」を実施したりすることによる読書の習慣化への取り組みを行う。
学習環境・生活環境	<p>○「早寝早起き朝ごはん」は安定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●テレビやDVD等の時間が多い。 ●勉強時間が少ない ●読書時間が少ない。 <p>○家庭でのコミュニケーションはとれている。</p> <p>○考えや意見を発表することは得意である。話し合い活動が充実している。協力しての達成感がある。</p> <p>○小学生は宿題をよくやる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●教科の学習への興味関心が低い。 <p>○自尊意識や規範意識が高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の定着化へ向けての取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の安定をはかる指導を充実させる。 ・家庭学習の方法を具体的に教える。保護者との連携を強め、家庭学習の習慣化を図る。 ・授業での学習と家庭学習を結びつけるために、宿題を意図的・計画的に、適切な量、質を考慮して与える。 ・宿題作成を、教科担当や担任に任せずに、学年・学校で取り組む。 ・eライブラリの積極的な活用を促す。 ○自尊意識や規範意識を高め、将来の夢をもつ取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・「自分にはよいところがある」といった自尊意識や、将来の夢を膨らませることができる学校生活を創り、自己肯定感、自己有用感を育む指導を行う。 ・児童・生徒指導を充実させ、きまりを守り、いじめをなくそうとする規範意識のある教室・学校をつくと共に、人の役に立ちたいという意識を育み、相互を認め合い、高め合うことができる道徳心をもつ児童生徒を育てる。 ・行事や体験活動を重視して感性を豊かにすると共に、自分の存在が認められ、自分の思いや願いや考えを合いながら友達と協力する場を重視する。 ○読書活動充実に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の時間の設定とともに、学校図書を整備と充実を図り、読書の習慣化に取り組む。 ・教職員や保護者による読み聞かせの実施や図書の紹介をおこない、児童生徒への本への興味関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校支援員」を各小中学校に配置する <ul style="list-style-type: none"> ・多様な学習支援を行うことができる体制を構築し、教職員が子どもと接する時間を確保する。 ○「地域のせんせい」の一層の拡大を図り、地域と連携した教育力の向上を図る ○家庭学習の習慣形成についての支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習啓発資料を作成し、家庭における学習習慣の形成への支援を行う。 ・PTA連絡協議会と連携し、家庭における学習習慣の形成について、各小中学校保護者・教職員・町民を対象とした教育講演会を開催する。 ○教育研究員研究会を学習環境・生活環境への取り組みに直結させて充実させる <ul style="list-style-type: none"> ・小中1名ずつによる児童・生徒指導研究部会「通常学級に在籍する支援を必要とする児童・生徒へのアプローチの在り方」の本年度の研究を充実させ、平成28年度は学習環境・生活環境への取り組みに直結した研究を行う。 ○携帯電話やスマートフォンの使用について、家庭へ向けて情報発信を行う <ul style="list-style-type: none"> ・教職員向けの資料提供や、家庭へ向けてのポスター配布等による、情報モラル教育も含めた情報発信を行う。 ○読書活動充実に向けた取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・読書指導員を対象とした研修会の実施による、図書空間の充実を図る。 ・「地域のせんせい」の活用による、ブックトークの実施。 ・総合図書館の本の活用の可能性を紹介したり、「わくわく読書マラソン」を実施したりすることによる読書の習慣化への取り組みを行う。

3 学校が取り組むべき課題

(1) 学力向上に向けた校長・教頭のリーダーシップに基づく組織的な体制づくりと、現状の正確な把握・分析、課題の明確化と対応策（方針）の検討

- ・研究推進委員会や学力向上委員会など、学力向上の中核組織編成と全教職員との連携体制を構築する。
- ・自校の成果と弱点を正確に把握し、それぞれの要因についての考察を行う。
- ・担当教科や学級担任のみの分析とせず、学校全体としての組織的な分析を実施する。
- ・分析から課題を明確化し、方針を策定し、全教職員で共有化する。
- ・課題から対応策を立て、全職員で対応策（方針）を共有化し、実現を図る。
- ・特色ある学校づくりを行うことと、学力の伸長との連携を図り、学校における学力向上の位置付けを明確に行う。

(2) 学力向上と連動した授業力向上と学習指導の改善

～基礎的・基本的事項の定着へ向けての取り組み～

- ・学習指導要領における各教科、各学年における基礎基本の明確化を図り、基礎・基本に焦点化された目標設定を明示し授業実践に取り組む。
- ・授業のはじめに授業の目標（めあて・ねらい）を児童生徒に分かるように示すことを徹底すること及び授業の最後には学習内容を振り返る活動を行うことを、授業の基本として共通理解する。
- ・前学期、前学年の内容も意識したスパイラルな学習機会を意識的に設け、当該学年までの基礎力定着に努める。
- ・朝学習の時間帯や授業内、さらには家庭と連携して宿題や家庭学習課題として、ドリル的な反復練習をおこなう時間を、意図的・計画的に設定する。また、小テストや単元テストを適切に行い達成状況を正確に把握する。
- ・小学校においても、制限時間の伴う客観テスト、及び問題と解答用紙の異なるテストを実施し、問題形式や実施形式に慣れさせる。
- ・必要な児童生徒に対して、補習や補充、少人数指導や個別指導を実施し、きめ細やかな指導による課題の克服やつまずきの解消に努める。
- ・「基礎的・基本的な知識・技能の習得に係る学年別評価問題（基礎力定着度確認問題）」（国語、算数・数学、理科）の年度内実施と結果分析、考察、対応策検討、補充補習を行う。
- ・e ライブラリの活用により、わかりやすい教材提示やプリント作成の工夫をする。

(3) 思考力・判断力・表現力等の育成、活用の力の伸長をはかる授業づくり

- ・学ぶ楽しさ・意義・有用性を実感できる授業を創る。
- ・しっかり教え、しっかりと考えさせ、児童生徒と教師が共に授業を創りあげる意識をもつ。
- ・目標の明示から、「読解力」を意識した、読み取り→考える場を設定する。
- ・さらに、「書く」ことを意識した、読み取り→考えたことを、目的や意図に応じて必要な内容を書く場を設定する。

- ・そして、「表現する・交流する」ことを意識した、読み取り→考える→書いたことをもとに、話したり討論したり、感じたことや考えたことを交流する場を設定する。
- ・流れのある学習を展開し、学習の終わりには、まとめたり振り返ったりする場をもつ。
- ・校内のテストや評価においても、出題方法、解答方法に工夫を加え、B問題のような設問にも慣れさせる。

(4) 校内研究の充実による、教職員個々と学校全体がもつ指導力量の向上

- ・各校の現状と課題に基づく校内研究の推進と日常的な授業実践研究。
- ・校内教職員による高め合いに加えて、外部講師や指導主事や他校の教職員による指導助言、意味付けや価値付けを受けて、より一層向上できる「成長する教師」集団の形成。
- ・小中学校の連携強化（教員間の学習指導における協議や情報交換や協業の場の増設）。

(5) 家庭学習の定着化へ向けての取り組み

- ・基本的な生活習慣の安定をはかる指導を充実させる。
- ・家庭学習の方法を具体的に教える。保護者との連携を強め、家庭学習の習慣化を図る。
- ・授業での学習と家庭学習を結びつけるために、宿題を意図的・計画的に、適切な量、質を考慮して与える。
- ・宿題作成を、教科担当や担任に任せずに、学年・学校で取り組む。
- ・eライブラリの積極的な活用を促す。

(6) 自尊意識や規範意識を高め、将来の夢をもつ取り組み

- ・「自分にはよいところがある」といった自尊意識や、将来の夢を膨らませることができ学校生活を創り、自己肯定感、自己有用感を育む指導を行う。
- ・児童・生徒指導を充実させ、きまりを守り、いじめをなくそうとする規範意識のある教室・学校をつくと共に、人の役に立ちたいという意識を育み、相互を認め合い、高め合うことができる道徳心をもつ児童生徒を育てる。
- ・行事や体験活動を重視して感性を豊かにすると共に、自分の存在が認められ、自分の思いや願いや考えを合いながら友達と協力する場を重視する。

(7) 読書活動充実に向けた取り組み

- ・朝読書の時間の設定とともに、学校図書を整備と充実を図り、読書の習慣化に取り組む。
- ・教職員や保護者による読み聞かせの実施や図書の紹介をおこない、児童生徒への本への興味関心を高める。

4 教育委員会が取り組むべき課題

(1) 寒川町教育振興基本計画(修正版)における取り組みの充実と授業展開

- ・知(確かな学力)、徳(豊かな心)、体(健やかな体)の調和のとれた生きる力の育生を具現化し、トータルな教育振興を進める。
- ・特に知育については基礎学力の向上と学習意欲の向上を最大の主題に据え、全小中学校と教育委員会が一体となって総力を挙げて取り組む。
- ・書く力を中心に据えた思考力・判断力・表現力等の伸長に取り組む。
- ・読書活動の推進ならびに読書環境の整備に取り組む。
- ・少人数学級の推進によるきめ細かい指導体制の充実に取り組む。
- ・少人数制授業の導入による個に対応した定着へ向けた指導体制の充実に取り組む。

(2) 校長・教頭のリーダーシップに関わる研修の強化

- ・校長会、教頭会、校長教頭研究会、教頭研究会における講演会、研修会の充実。
- ・学校運営実践研究会・教育委員会調査研究会における各学校長・教頭の実践発表と相互研修。

(3) さむかわ学びっ子育成推進事業の全町的な展開

- ・かながわ学びづくり推進地域研究委託事業を受け、2年間を見通した、全町的な校内研究の充実による授業力向上と児童・生徒の学力向上を図る。1年経過後に中間発表、2年経過後に成果の発表をおこなう。
- ・各校1名による研究推進委員会を組織し、各校の研究推進促進、共通の課題の抽出、方向性の明確化、具体的な取り組みについて協議する。また、書く力を中心に据えた全町的な課題と各校の校内研究とのリンクを図る。
- ・各校の授業研究会(研究授業・研究協議会)を町内全小中学校に公開し、共に研究協議を推進する。
- ・各小中学校の学力向上の課題に即したテーマの講演会を実施し、全教職員に幅広く参加を呼び掛ける体制をつくる。
- ・大学教授等を学力向上のスーパーバイザーとして招聘し、各校のニーズにあった指導助言による研究推進を図る。講演会・研究会を町内全小中校に公開する。
- ・授業研究会には、町指導主事が総力をあげて指導助言体制を組むと共に、県教育委員会指導主事も招聘し指導助言体制の一層の充実を図る。
- ・小中交流研究会を教科別もしくは学年別分科会を中心に構成し、「学力向上」をテーマに研究協議を深める。

(4) 寒川町教職員研修会の一層の充実と研修参加体制の拡大

- ・学力向上とそれに関わる授業改善についての研修を拡大する。
- ・講師の厳選を図り、教職員の指導力向上に直ちにつながる研修会とする。

(5) 教育研究員研究会を学力向上に直結させて充実させる

- ・小中1名ずつによる教育課題研究部会「基礎力定着度確認問題の改訂(国語科)から書く力の定着

を目指して」ならびに授業づくり研究部会「7年間を見通した小学校外国語活動と中学校英語に係る連携と指導」の本年度の研究を充実させ、平成28年度はさらに学力向上に直結した研究を行う。

(6) 少人数学級、少人数学習のシステムをさらに充実させる

(7) 学力向上へ向けて教育委員会としての具体的な方策について検討する

- ・若手教員の授業力向上に向けて、初任者研修会および2年次教諭研修会の充実を図り、積極的に授業研究や研究協議会を開催し、指導主事が総力をあげて指導助言体制を組む。
- ・「基礎的・基本的な知識・技能の習得に係る学年別評価問題（基礎力定着度確認問題）」（国語、算数・数学、理科）及び「神奈川県公立小学校及び中学校学習状況調査」の町としての結果の分析による成果と課題の抽出を行う。
- ・学力補助教材やeライブラリの導入により、学力向上と評価評定の連結、学力向上と自学自習の習慣化に取り組む。
- ・教員の多忙化解消へ向けて、ハード面・ソフト面の両面からの可能性について検討を行う。
- ・小学校中高学年の漢字の定着について「さむかむ学びっ子漢字コンクール（仮称）」実施に向けて検討を行う。

(8) 「学校支援員」を各小中学校に配置する

- ・多様な学習支援を行うことができる体制を構築し、教職員が子どもと接する時間を確保する。

(9) 「地域のせんせい」の一層の拡大を図り、地域と連携した教育力の向上を図る

(10) 家庭における学習習慣の形成についての教育講演会の充実を図る

- ・家庭学習啓発資料を作成し、家庭における学習習慣の形成への支援を行う。
- ・PTA連絡協議会と連携し、家庭における学習習慣の形成について、各小中学校保護者・教職員・町民を対象とした教育講演会を開催する。

(11) 教育研究員研究会を学習環境・生活環境への取り組みに直結させて充実させる

- ・小中1名ずつによる児童・生徒指導研究部会「通常学級に在籍する支援を必要とする児童・生徒へのアプローチの在り方」の本年度の研究を充実させ、平成28年度は学習環境・生活環境への取り組みに直結した研究を行う。

(12) 携帯電話やスマートフォンの使用について、家庭へ向けて情報発信を行う

- ・教職員向けの資料提供や、家庭へ向けてのポスター配布等による、情報モラル教育も含めた情報発信を行う。

(13) 読書活動充実に向けた取り組み

- ・読書指導員を対象とした研修会の実施による、図書室空間の充実を図る。
- ・「地域のせんせい」の活用による、ブックトークの実施。
- ・総合図書館の本の活用の可能性を紹介したり、「わくわく読書マラソン」を実施したりすることによる読書の習慣化への取り組みを行う。

(14) 指導主事による指導、援助の充実化

- ・各校の調査結果の共同分析、対策検討
- ・月例訪問
- ・校内研究会での指導、助言
- ・他

(15) 計画訪問の充実化

- ・各校における校内研究と連動した指導案の作成、授業実践
- ・一授業一人以上の指導主事配置のために湘南三浦教育事務所との連携
- ・分科会での協議の充実

授業改善へむけての7つの視点

「当たり前のこと」を再確認することから

寒川町教育委員会

① 授業のポイントの明確化・顕在化をはかる

- ・ 本時の目標の顕在化…単元名や内容項目だけではなく子どもの学びを明確にする
- ・ 子どもの活動と指導の流れの確認…何となく進めるのではなく、授業の流れを事前にイメージする
- ・ ふりかえりと評価のある授業…やりっぱなしにせず、要所で児童生徒も教師も授業をふりかえる

② 板書の充実をはかる

- ・ 黒板の不要掲示物を整理してから授業を始める
- ・ 授業のはじめに、目標（めあて・ねらい・課題・問題）の提示をする
- ・ やり方の提示だけでなく、子どもの発言、意見や考えを書く
- ・ 授業のおわりに、結果や考察やまとめの提示をする

③ 言語活動の基礎となる場面を取り入れる

- ・ 「自分の考え」をもたせたり、書かせたりするためのステップがある
- ・ 隣の席の人やグループや全体で、考えを表明する場がある
- ・ 決定したり判断したり、自分の考えを再考する場がある

④ 言語環境の整備をおこなう

- ・ 教師の話し方・聞き方の点検（言葉遣い・表情・抑揚・間の取り方など）をおこなう
- ・ 児童生徒の話し方・聞き方の指導をおこなう
- ・ 音読のしかたの指導をおこなう
- ・ ノートやメモの取り方、自分の意見の書き方、資料の読み取り方などの指導をおこなう
- ・ 理由や根拠をあげながら説明する機会を積極的に取り入れる

⑤ 多様な学習形態から必要なものを選択する

- ・ 机間指導・個別指導をする
- ・ 必要に応じて、特別教室等の選択、机の配置や向き等を変える
- ・ ペアや3～4人程度のグループでの活動を取り入れる

⑥ 教材教具やワークシートを工夫する

- ・ 学びを支援するために、様々なアイテムを検討し、効果的に使う
- ・ I C T機器（学習用パソコン・実物投影機など）を積極的に活用する
- ・ 一人ひとりの教師が使用・作成したものをデータベース化し共有化をはかる

⑦ 授業前後や日常生活における学習への支援をおこなう

- ・ 授業の目標に到達していない児童生徒への対応の早期実行
- ・ 漢字や計算等、意欲的に反復練習することができる工夫と取り組み
- ・ 家庭学習（予習・復習）への支援、宿題の習慣化
（教師単独で取り組むだけではなく、教科・学年・学校での取り組みとして）

授業の基礎基本チェックシート10

「当たり前なこと」を再確認することからⅡ

寒川町教育委員会

① 授業直前のチェックポイント

- 「今日はここまで」「子どもにこれを言う」
 - …本時のねらいははっきりしている
 - …主発問が決まっている
- 「これを使って」「こんなふうに」
 - …教材・教具の準備ができています
 - …学習形態と板書のイメージができています

② 授業中のチェックポイント

- 「目標（めあて・ねらい・課題・問題）はこれ」
 - …子どもに分かる提示をしている
- 「先生が伝えたいのはこれ」
 - …教師の言葉は必要最低限にしている
- {
 - 「考えるのは今」（子どもが活躍する場を①）
 - …考えたり試したりする場面を確保している
 - 「交流するのは今」（子どもが活躍する場を②）
 - …発言し話し合ったり相談したりする場面を確保している
 - 「わからないことは今」（子どもが活躍する場を③）
 - …疑問や質問や困りを解決する場面を確保している
- 「今日学んだのはこれ」
 - …子どもに分かるまとめを提示・ふりかえりの場を設定する
- 「次の時間はこれ」
 - …次時の予告や見通しを共にもって終了する

③ 授業直後のチェックポイント

- 「想定通りにならなかったのは…」
 - …冷静な省察ができています
- 「子どもにとっては…」
 - …子どもの発言・記述の意味づけができています
- 「次に必要なことは…」
 - …次時への接続、補足補充の必要がイメージできています